

## 自由服装への抗議

三 木 俊 秋

昭和八年に神戸女学院が神戸市の山本通より、西宮市の岡田山に移転した頃から、高等女学部では、全生徒が洋服となり、戦前で最も華やかな服装最高潮の時代を現出していた。然し昭和十年ともなると天皇機関説が国体否認の反逆思想とされるなど、次第にファシズムの思想統制の旋風が吹き出して来た。昭和十一年には二・二六事件が起こって、世の中は次第に軍国主義へ突入してゆこうとしていた。

この頃神戸女学院高等女学部に於ては、度々一部の父兄から川崎部長に対して、生徒の服装統一について要望が出されていた。然し川崎高等女学部長はいつもこれをつっぱねてとり合わなかった。これに業をにやした一父兄が敢然と畠中副院長に直訴した。

このような父兄からの要望を考慮してのことであろうか、学院内に制服研究委員会が設けられることになった。この委員会は次の内容の報告を行なった。

特に制服は制定しないが、学校標準型を定め、通学服新調の時にこれに合わせる。現在の服も標準型に改造させる。制服を決めない理由は、材料難・資源愛護・国家計画への協力であった。冬服・夏服の型と色が決められ、冬服はス

ーツ式、色は紺又はねずみ色、生地自由、ブラウスは自由、夏服はワンピース可、ブラウス半袖可、であった。

昭和十六年度には、高等女学部で更にこれが強化され、服装統一、土曜通学が断行された。

この手紙は戦時服装統一へのさきがけを告げるものであった。昭和十一年五月二十七日付で出され、封筒には住所・氏名を明記しているが、本文では終わりに匿名を希望しているので掲載しないことにする。誤字も原文のままにした。

#### 貴院高女部生徒ノ制服制定ヲ急望ス

恐ラク之ハ全生徒全父兄ガ切ニ希望シテ止マナイトコロデシヤウ。聞キマスレハ從來幾人幾回トナクコノ希望ト必要ヲ進言シタ父兄ガアルソウデスガ、其都度鼻あしらいデテンデ問題トモセラレヌ様ニ<sup>(付)</sup>灰聞シマシタ。ドウモ川崎部長ハ御年寄ニモ似合ハナイ才子肌ノお方デ何事デモ輕ク嘲笑的ニお方付ケニナリマスヤウデ、事ノ輕重ノ御識別ガナイカノヤウニ察セラレマスノデ、寧ロ副院長デアラセラレル貴下ニ進言スル次第デアリマス。

成程貴院ハ米国人ノ経営ダケニ、兎角ハ米國主義ニ傾カレルノハ無理モナイトコロデハアリマスガ、例ヘ何国人ノ経営デアリマシテモ、経営地ガ日本デアリマス以上、更ニ日本人ノ子女ヲ教養セラレマス以上ハ、何処マデモ我日本ノ國風國情乃至國民性ニ御考ヘクダサラネバナラヌコトト存ジマス。或ハ又創校六十年ノ伝統ダカラ今更改メルコトハ出来ヌトノ頑固墨守ノ為デデモアリマスナラ、ソレコソ他愛モナイ時勢知ラズノ愚カナお考ヘデ、日進月歩殊更躍進日本ノ今日デハ徒ニ失笑ニ値スルバカリデアリマシヤウ。川崎部長ノお言葉デハ、制服ハ不經濟ダ、本院ハ質素ト自由ヲ本旨トスルノデアルカラ、家庭着ノ俣吞氣氣輕ニ登校ガ出来ルノデアルカラ、之レホド都合ハナイデハナイカ、若シ夫レ通校服ノ為ニ氣ヲ揉ンダリ、不經濟ヲシタリスル者ガアルトスレバ、ソレハ畢竟ソウスル人々ノ考ヘ違

デ、勝手ニ困ツテ居ルノデアツテ、本院ノアヅカリ知ラストコロデアル云々、ト高嘯サレルヤウニモ聞キマシタガ、果シテ左様ナ御主旨御意見デアルトシマスレバ、失礼ナガラ余リニ実情ト離レタ上江リノ不親切ナお考ヘデアルト申サネバナリマセス。更メテ申上ルマデモナク高女部生徒ノ年頃ハ、頑是ナキ少年時代ヲ脱シタ青年ノ初期デ、社会觀ノ蔑見時代ニ何モカモ珍シク物慾シク、人真似ノシタイ盛リデアリ、而モ社会ノ情勢風潮ガ現状ノ如クデアツテ見マスレバ、如何ホド華美ヲ戒メ質素ヲ旨トセヨト申シタコロデオサマルモノデハアリマセス。自由ト云フコトハ結構デハアリマスガ、狂犬ハ縛テ置カネバナラスノト全斷デ、無定見ニ奔放セントスル年頃ノ子女ニ、自由ヲ与ヘルホド危イコトハアリマスマイ。何事モ一寸見デハ判ルモノデハアリマセン。一見ニハ高女生幾百人ノ通校服ガ、何処ニモ華美ナトコロモ不經濟ラシイトコロモ見ヘズ、家庭服其俚ニ無造作ナヤウニモ見ヘマシヤウカラ、何時マデ経テモ無關心デ済マシテ居ラレルコトト思ヒマスガ、仔細ニ彼女達ノ日々ノ着服ヲお調べニナリマスナラ、決シテ左様ニ無造作ナモノデナイコトガキツトお判リニナレルコトト思ヒマス。制服ニサエナリマシタラ、夏冬各一着デ事ガ足り、洗ヒ替ガ要ルニシマシテモ、些々タルモノデアリマスガ、自由服デアリマス限り、ソシテ奢侈ニハ移リ易イ習イトテ、ブルジョアノ子女達ガ取替ヘ引替ヘモダンナ風ヲシテ行ク限り、春夏秋冬ノ四変リナラ未ダシモ、初春晚春初夏盛暑初秋晚秋初冬隆冬ヤレ正月ダヤレ天長節ダト、却々容易ナコトデハアリマセス。殊ニ悩マサレマスコトハ、何シロ伸ビル盛リノ年頃デスカラ、一年々々服ガ合ハナクナリ、次々ニ新調セネバナラスコトデ、ソレハ制服ダトテ全様デアルトモ云ヘマシヤウガ、制服ナラバ多少身巾ガ広クトモ狭クトモ、自他共ニ許スト心理作用ガアリ、又仕直シモ容易デアリマス。以上ハ単ニ經濟上ノ見地カラバカリデアリマスガ、之ハ寧ロ小サナ問題デ、最モ大切ナ關係ハ紀律、統制ソレカラ及ボス精神的影響デアリマス。幸ニ御校風ガ宜シイノデ貴院高女部ニ不良ノ風ハ吹イテイナイヤウデハアリマスガ、外々ノ学校ニハ一校モ土曜日ガ休ミノ学校ハナイヤウデアリマスノニ、貴院バカリハ休日デ高女生ナゾブラ

／＼外出ノ際ナド、世間ハ学生デナイヤウニ思フラシク、追々ハソウシタトコロニモ不良ノ乗ズル機會ガ生ジハセヌカトノ心配モアリマスガ、休日問題ハ兎モ角トシテ、ソシナ時デモキチント一定ノ制服ヲ着ケテ、校風善良ナル神戸女学院高女部生徒デアルコトヲ一目瞭然セシメテ置クコトガ、自他ノ為少クモ安心デハナイデシヤウカ。又時々見ルコトデアリマスガ、電車ナゾデ三々五々制服ノ女生ガ、サモ潑刺ト幸福ソウニシテ居ルソバニ、学生ヤラ何ヤラ判リ難イ自由服ノ少女ガ乗合セテ居ル場合、何トナク肩身狭ク踞背シテ居ル様子ハ、甚ダシク哀レニイデラシク思ハレマス。申込ハナク学生ノ心理ニハ母校ノホコリト申スコトガ、何ヨリモ強キ背景トナルモノデ、之アルガ故ニ潑刺ノ進退ガアルノダト思ヒマス。徽章ヲ附ケテ居ルデハナイカト申サレルデシヤウガ、アソナ小サナ校章デハ他ヲ庄スルナゾアルモノデハアリマセン。ソレモ貴院ソノモノガホンノ小サナ学塾的ノモノデモアルナラ、寧ロ窈カニ実力本位デ胸ヲサスツテ居ルト云フコトモアリマシヤウガ、校舎ト云ヒ規模ト云ヒ沿革校風ニ至ルマデ、関西第一流ヲ以テ自認セラレル貴院デアリナガラ、何故ニ今日ガ日マデ時勢ニスネタ様ナ、ソシテ大切ナ教ヘ子ヲ電車内デ踞背セシメテ捨テテ置カレルノデシヤウカ。ヤレ自由主義デアルノ米國主義デアルノト申サレタコロデ、今日我日本帝國ノ官公私夫々ノ学校ニ果シテ何処ニ自由服デ済マセテ居ル学校ガアリマスカ、日本ノ国民性ハ古来規矩ヲ好ミ、之レナクテハ生活ノ出来ヌ國民デアルコトハ、凡ソ住家ノソレニシロ衣類ノソレニシロ、円ヨリモ寧ロ角ヲ好ムト云フタ様ナ性習ノアルコトハ、疾ク御判リデアリマシヤウ。惣テハ紀律ト統制デ何事ニモ一定ノキマリヲ基トシテ行動スル國風デアリマスコトモ、御存知ノ通りデアリマス。キマリノナイダラシナサガ、如何ニ精神的ニ惡影響ヲ及ボスカハ、今更多言ヲ要シマセヌガ、殊更動キ易ク揺ギ易イ危險年齢ノ女学生ニ対シ、何故速カニ制服ヲ定メラレヌノデアリマシヤウカ。俄然今月廿一日ノ大朝夕刊ニ「大阪府五十万小学生ノきもの統一」ノ記事ト共ニ、序ニ男女教員ノ服モ制定スルヤウナ記事ヲ見マシテ、大ニ賛成シマシタガ、追々ニハ全國津々浦々ノ各学校マデ之ニ倣フデアラウト思ハレマ

ス。斯カル時勢ヲ横目ニ見テ貴院バカリガ伝統呼ハリヲサレテ、頑トシテ制服ヲ鼻笑ヒサレルバカリカ、甚ダシキハ日々教壇ニ立タレル女先生マデガ、極端ナ自由ヲ許サレ、日本古来ノ風習デアル袴モ着ケラレズ、丸腰デ平氣デ済マシテ居ラレルト云フコトハ、理窟ハ兎モ角甚ダ感ジガ宜シクナイト思ヒマスガ如何デシヤウカ。ソレハ兎モ角生徒ノ制服ダケハ、是非々々急速ニ御制定ニ預<sup>（与）</sup>リタイト思ヒマス。尤モ人心様々デアリマシテ、数アル父兄ノ中ニハ、或ハ反对ナ人モアルカハ知レマセヌガ、少クトモ愛児ノ精神的影響ヲ考ヘ、又實際ニ經濟上ノ利害ヲ思ハレル限り、ソレコソ突飛輕薄ナ甚ダシク愚カナ考ヘデアルト申シテ憚リマセヌ。自由服ノ弊害、制服ノ利益ニ付キマシテ、之ヲ評論シマスレハ、一朝尽シ難イホドデアリマスガ、何モ御達識ノ御判断ト御敢行ニ俟ツ之外ハアリマセン。人間ハ由来甚ダシクダラシノナイモノデ、ソウシテ面倒臭ガリ屋デ、物事ヲ改良スル勇氣ニハ別ケテ乏シク、言ハント欲スルコトモ得言ハズ、事勿レ主義ニ醉生夢死的ノ父兄ノ多イ中ニ、私ハドウシテモ我慢ガ出来ナクナリマシタノデ、敢テ進言致マスノデアリマス。

終ニコノ進言ヲ匿名トシマスルノハ、決シテ卑怯カラデハナク、要ハ人ニ依ラズ事ノ御採否ニアルノデスカラ、誤テ御感情ヲ煽ル恐レノアル氏名示現ヲ、故ニ避ケタノニ外アリマセヌ。御諒察ヲ。

神戸女学院

（鳥）  
畑中副院長殿

T S 生